

夏越の祓い 輪くぐり神

6月30日(火) 事

夏越大祓式



“昔、宮廷では12月晦日と六月晦日の年2回、「大祓い」の神事が行われていました。祓いは、日本の神祭りの基本とも言える作法で、私たちが日常生活のなかで、知らず知らずに犯してしまった罪けがれを清め、心新たに生活を営むべく、大きな力を得る大切な行事が『大祓(おおはらえ)』です。”

今では民間に普及し、盛大に行われる様になりました。

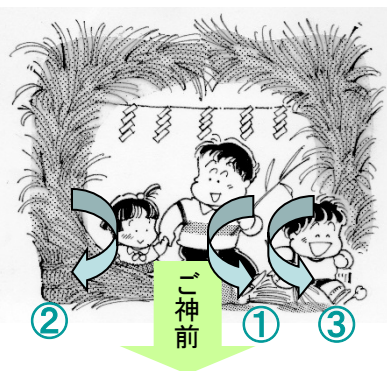
そして、12月のほうを「年越し」と呼ぶのに対し6月のほうを「夏越し」と呼んだのです。12月の大祓はその1年の穢れを祓って新しい年を迎えようと言う行事で、大祓の後には、「正月」という晴れの行事が待っています。

では夏越の祓はといえば、同様に1年の前半が済んだところでその半年の穢れを祓い、正常な身で「盆」という晴れの行事を執り行います。

大祓の神事後は夕方5時～9時まで境内に設けられる祓い戸にて御祈禱を個別に行います。

また境内の茅の輪は7月6日の午後3時まで設置いたします。ご自由にくぐっていただけます。

茅の輪は向かって左→右→左とくぐりご神前に進みます。



大祓の神事 午後5時より

大祓式に参列される方は午後5時前にお越し下さい。

皆様どうぞお誘い合わせくださいませ、夕涼みがてらにご参詣ください。
茅の輪をくぐり清々しく残りの半年を迎えましょう。